

「フッピートーク2024」
での意見に基づく提言書

～市議会議員と袋井市の未来を語ろう～

令和6年12月
袋井市議会
広報広聴委員会

1 はじめに

市議会では、議会の活動状況を市民に報告するとともに、市政の諸課題に対処するため、市民の皆さんと議員が意見及び情報を交換する議会報告会を平成25年度から開催している。

本年度は、昨年度実施したフッピートークでの意見交換のテーマ（①みんなのできる防災・減災対策②地域の魅力を活かした「稼ぐ力」）についてさらに議論を深めるため、昨年度の意見交換で出された「課題解決のための提案」の中から、今後重要となるテーマを設定し、グループごとに意見交換をしていただいた。

2 意見交換会概要

(1) 開催場所、日時等

日 時	開催場所 実施方法	参加者	議員
11月4日 (月) 13:30~15:30	袋井市教育会館 4階大会議室 グループワーク	市民等42人 (うち外国人参加者8人)	19人

(2) 開催内容

ア 市議会の活動報告

議長が本年度の議会活動の報告を行った。

イ 意見交換

2つのテーマについてグループ割を行い、意見を出し合いまとめを発表した。

3 テーマ設定及び主な意見

昨年度実施した「フッピートーク2023」において意見交換で出された「課題解決のための提案」の中から、市民も行政も解決を望んでいる課題を分析した上でテーマを設定し、解決方法等について皆さんで意見交換を行った。

<テーマ1>みんなのできる防災・減災対策として

外国人居住者の防災訓練への参加拡大を図る

～テーマ設定理由～

災害時の基本は、自助、共助、公助であり、行政はもとより市民自らの取組が大変重要となる。そこで、今後も増加が見込まれる外国人の皆さんに、防災・減災対策について関心を持っていただき防災訓練への参加を促すためにはどのようにアプローチしたらよいかが課題となってくる。

市では、転入時に「外国人市民の防災ハンドブック」などのパンフレットで説明するとともに、約900人が登録している「Facebook」で情報発信を行うなど、まずは「日本の災害事情を知ってもらうこと」を主眼に取り組んでいる。

現在の取組に加え、どのようにしたら外国人の皆さんの関心を促し、防災訓練への参加向上に繋げられるかのヒントを得るためこのテーマを設定した。

●主な意見

- ・外国人の転入者が地域とコミュニケーションが取れる環境整備が必要である。
(例えば地域で暮らすためのルールの説明・地域行事等への参加の呼びかけ等)
- ・防災訓練に関しては、外国人の防災リーダー育成や避難マニュアル等を翻訳した資料を外国人世帯に配布し、参加を促す必要がある。
- ・外国人とのコミュニケーションを図るには、地域に居住する外国人を把握し、地域の文化や行事などへの参加を促す。また、あいさつなどの声掛けを地域住民から積極的に行っていくことが求められる。
- ・自治会参加、情報共有、事業所の理解など、文化の違いや多様性を乗り越えて付き合う。
- ・平時から外国人が自治会活動に参加できる雰囲気づくりや、イベントに誘って活動してもらうことが大事である。
- ・子どもが通う学校から親へ、子どもを通して資料提供、情報共有できるようにする。
- ・アプリやツールの活用で、情報をしっかり伝えることが大事である。

<テーマ2>地域の魅力を活かした「稼ぐ力」の対策として

スポーツ協会、商工会議所、観光協会、市などが一緒になって、スポーツツーリズムの機運を盛り上げる

～テーマ設定理由～

スポーツを軸として、スポーツをする、観るだけにとどまらず、スポーツに関わる人々との交流、観光、地域連携などの要素を加えた旅行スタイルのこと

をスポーツツーリズムととらえ、市では、スポーツ合宿誘致や、袋井スポーツ飯の開発などを進めている。スポーツツーリズムとは？まずは、市民の皆さんの理解を広めること、そしてスポーツツーリズム推進に向け、関係団体の更なる連携を深めるとともに、市全体の機運を高めるためにはどのようなことができるのかを皆さんとともに考えることを目的にこのテーマを設定した。

●主な意見

- ・サイクリング、サーフィン、ウォーキング、eスポーツなど、何か一つに特化する。
- ・スポーツと食、スポーツと健康、スポーツと美容、スポーツとITなどへの結び付け。
- ・SNS（インスタグラム・Facebook等）での公式PRが必要。
- ・青年会議所（JC）、商工会議所や各団体の青年部など、若い力に協力してもらった情報発信。
- ・オリエンテーリングなど静岡県小笠山総合運動公園エコパを活用して幅広い年代の集客を図る。
- ・スポーツイベント観戦者に向けた遠州三山巡りツアーなどを宿泊施設と連携して観光客を受け入れる体制を整備。
- ・お茶摘みとスポーツ、田植えとスポーツ、ごみ拾いとスポーツなど、袋井市特有の産業を活用した体験型のイベントの実施。

4 提言内容

グループごとの意見交換で出された意見を参考に、今後行政が取り組むべき内容を政策提言として次のとおり取りまとめた。

<テーマ1>みんなでできる防災・減災対策として

外国人居住者の防災訓練への参加拡大を図る

(1)外国人の自治会加入・参加促進について

外国人は、地震や風水害等に対する備え（避難所等を含む）や、災害の知識・体験がないため、有事に備え、地域とコミュニケーションが取れる環境整備が必要である。そのため、あいさつなどの声掛けを地域住民から積極的に行っていくことで、居住する外国人を把握し、また自治会活動への参加を通じて

地域の文化に触れることを促すことで、災害時に困らないような関係性を構築されたい。

【具体例】

- ・地域で暮らすためのルールの説明会（防災・減災対策含む）の開催を促す
- ・地域ごとのお祭りや、コミセンまつりへの参加の呼びかけを促す
- ・事業所の協力を得て、自治会加入を促す など

(2) 防災への理解を深める取組について

防災訓練に関しては、参加の前提として、なぜ訓練に参加する必要があるのかを理解してもらうことが必要であることから、日本で起こりうる災害の種類や本市における対策に関する知識、及び防災・減災対策の必要性を広く周知する取組を検討されたい。

【具体例】

- ・日本語教室などで実施している、外国人向けの防災に関する交流活動を地域でも実践してみる など

(3) 言葉の壁への取組について

学校に通う子供たちは、日本語も母国語も堪能である可能性が高く、親子など親族であれば信頼関係も高いと考えられるため、小学校単位で子どもを経由して防災に関する情報を家庭で共有できる取組を検討されたい。

【具体例】

- ・学校の授業で子どもと一緒に「私たちの防災新聞」を多言語で作成し、家庭に配布する など

(4) 効果的な情報発信について

災害の種類やそれらに対する備えは国により異なることから、本市に居住する外国人に災害について知ってもらうために、防災のコーディネートができる外国人の防災リーダーを育成することで、周りの仲間へのインフルエンサーとして活動してもらうなど、外国人に届くような情報発信が必要である。

また、現在実施しているFacebookでの情報発信など、外国人が使いやすく、いざという時に対応できる情報発信のツールを活用し、効果的な情報発信を進められたい。

【具体例】

- ・スーパーや病院など外国人がよく行くところに防災に関する外国語表記や「やさしい日本語」で書かれたチラシを配架する
- ・外国人が就労している事業所に「防災・減災新聞」を掲示してもらい、防災意識を高めてもらう など

＜テーマ２＞地域の魅力を活かした「稼ぐ力」の対策として

スポーツ協会、商工会議所、観光協会、市などが一緒になって、スポーツツーリズムの機運を盛り上げる

(1) スポーツ観戦と観光イベントとの連携について

小笠山総合運動公園エコパやさわやかアリーナで行うスポーツイベントへの参加者のみならず、スポーツ観戦での来袋者が、市内の観光も体験していただける「遠州三山巡りツアー」などを企画し、本市の魅力を知ってもらいリピーターになっていただけるような取組を検討されたい。

また、市内の宿泊施設において、観光案内所で販売しているような「袋井みやげ」や本市の特産品を販売することで、市のPRと併せて「稼ぐ力」に繋がられる取組を検討されたい。

【具体例】

- ・夏は風鈴祭り、春はひな祭りなど、四季ごとの観光ツアーを企画しスポーツイベント参加者に袋井の観光地をPRする など

(2) 地域の資源を生かした取組について

新茶の季節にはお茶摘みとスポーツ、田植えの時期は田植えとスポーツ、メロン栽培とスポーツ、さらにはゴミ拾いとスポーツなど、四季折々の農業体験や、環境イベントとのコラボなど他分野との連携プログラムにより地域経済活性化に繋がるようなイベントの開催など市外の来袋者の取り込みを検討されたい。

【具体例】

- ・同笠海岸でのスポーツイベント（サーフィンなどのマリンスポーツ大会など）での海岸クリーンアップ作戦 など

(3) スポーツと関連づけた事業発掘とPRの取組について

スポーツと食、スポーツと健康・美容、スポーツとITなど、他分野との融合など、他にないような新たな事業発掘や同笠海岸を活用した、外国人に人気のあるマリンスポーツなど、何か一つに特化した「袋井ならではの」のスポーツイベントが盛り上げられるような取組を検討されたい。

また、袋井市をより多くの人々に知ってもらうために、各種団体の青年部など若い人たちの協力を得て、SNSを活用した魅力的な情報発信により全国に袋井市が届くような取組を検討されたい。

【具体例】

- ・スポーツとのコラボイベントの企画（案）を市民や企業から募り、企画（案）について市民投票を行い、共感の多かったものを実践する など

5 おわりに

この提言書は、本年11月に開催した「フッピートーク2024～市議会議員と袋井市の未来を語ろう～」において、参加者の皆さんがグループごとに設定したテーマについて話し合っていたいただき、その解決方法として出された意見を広報広聴委員会としてまとめたものである。

また、意見交換で出された意見は、11月10日に開催された「ふれあい夢市場」において156人の来場者に“いいね！”と思う意見にシールを張っていただくことで、皆さんが共感する意見も参考とさせていただいた。

防災・減災対策については、外国人とのコミュニケーションの必要性や、災害についての情報を効果的に伝え、防災・減災の必要性を知っていただき参加を促していくことが多くの意見であった。

また、地域の魅力を活かした「稼ぐ力」については、他にはない袋井市に特化したスポーツイベントの考案や、地域資源の活用、さらにはスポーツと他分野との融合など、新たな取組により袋井市の情報を発信し、人を取り込むことが提案として出された。

今回の意見交換では、2つのテーマについて、参加する皆さんがそれぞれの立場で課題感を持って、どのようにしたら課題が解決できるか意見を出し合い参加者の中で共有していただくことができ有意義な時間を持つことができた。

おわりにあたり、今回の意見交換における皆さんの意見をまとめることで、2つのテーマに関する袋井市の取組が、本提言を踏まえ、今後、具体的施策の実現に結び付くことを望むものである。